

2022年6月3日09:30 (日本時間) /00:30 (協定世界時) まで公開禁止

auじぶん銀行 日本サービス業PMI®

及び、auじぶん銀行 日本複合PMI®

事業活動の増加率は、6か月間で最大

主な動向

生産高と新規事業は、昨年11月以来の拡大幅

受注残、2019年9月以来最大のペースで増加

購買価格は記録的な上昇

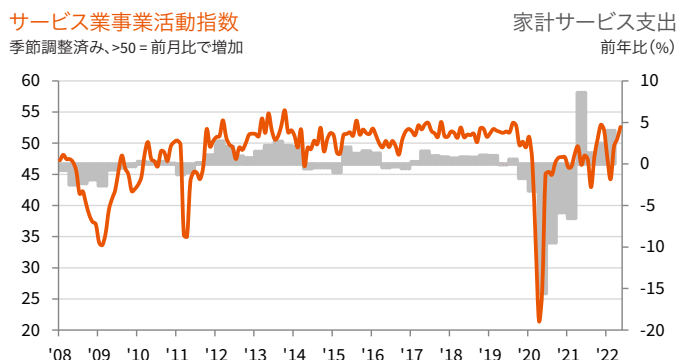
データ収集期間：2022年5月12～26日

日本のサービス業の事業活動は、2022年第2四半期半ば加速するペースで改善を示した。パンデミックの影響減少と、新型コロナウイルス関連の規制緩和により、事業活動と新規事業は2021年11月以来最大の伸び率を記録した。新規受注が伸びたため、受注残が2019年9月以来最大のペースで増加し、企業は対応として雇用増をはかった。価格圧力は5月も依然として深刻で、燃料や原材料のコスト増加が購買価格を調査史上最大値に押し上げた。

auじぶん銀行日本サービス業PMI®は、S&Pグローバルがサービス業約400社からの調査回答を基にまとめたものである。対象セクターには、消費者サービス(小売以外)、運輸、情報通信、金融、保険、不動産、ビジネスサービス等が含まれる。

主要指標はサービス業事業活動指数で、事業活動量が前月比でどう変化したかを示す。数値が50を超えれば全体として前月比で増加したことを、50を割り込めば減少したことを意味する。

日本のサービス業の季節調整済み事業活動指数は、4月の50.7から5月には52.6へ上昇。事業活動は緩やかに増加し、6か月間で最大の伸びとなった。企業らは、パンデミック関連の規制緩和が、観光業界を中心に需要増加につながったと指摘した。



同様に新規事業も、昨年11月以来最大の上昇率を記録。堅調な伸びとなり、調査回答企業らは、パンデミックの影響が薄れ、顧客の購買意向が強まったことをコメントに寄せた。しかし、海外需要は縮小圏に戻り、全体的にも急減した。輸出売上が減少したと報告のあった企業らは、中国など主要市場における新型コロナウイルス感染拡大を要因に挙げた。

日本のサービス業では5月、受注残が3か月間で2度目の増加を記録し、生産能力への圧力が増加したことを示した。増加は若干だったものの、新規受注数の大きな拡大を受け2019年9月以来的増加率だった。企業らが雇用増によってこれに対処しようとしたため、雇用者数は13か月間で最大の増加率を記録した。

サービス業の平均間接費は5月に18か月連続で増加。コスト上昇については、原材料及び燃料費の高騰が要因に挙げられた。購買価格のインフレ率は調査史上最大だった。平均サービス単価は再び上昇。2019年10月以来的伸び率だった。

企業は今後12か月間の事業活動について、5月も楽観的な見通しを示した。企業が概ね、コロナ禍の収束が国内外の需要を刺激し、新製品発売の促進につながるとの期待をしているからである。しかし、5月は楽観的な景況感の勢いが若干緩やかになった。

auじぶん銀行 日本複合PMI®

民間企業の生産高、
昨年12月以来の増加率

製造業とサービス業の複合生産高を測るauじぶん銀行日本複合*PMI生産高指数は、5月に52.3を記録。4月の51.1から上昇し、民間企業の生産高が緩やかに増加していることを指摘した。増加率は過去5か月間で最大だった。

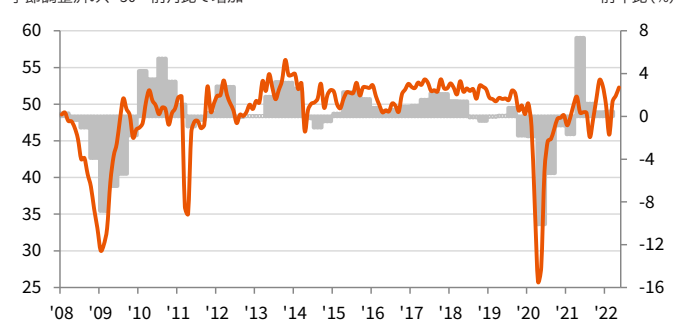
より規模の大きいサービス業が成長を牽引し、事業活動と新規事業は2021年11月以来最大のペースで増加を記録した。製造業の生産高と新規受注数の成長率は、4月と比較して緩やかになり、それぞれ3か月間と8か月間で最も鈍化した。

しかし、民間企業の需要増加により受注残が記録的に伸び、企業へのさらなる圧力となった。日本のサービス業の5月の雇用者数は16か月連続で増加した。雇用創出率は昨年9月以来最も高く、サービス業では13か月ぶりの高い増加率となり、一方製造業では増加率が加速した。

民間企業は5月、平均間接費の急増を記録しインフレは21か月連続続いている。企業らはコストの一部を顧客に転嫁しようと努め、製品価格およびサービス単価の両方が調査史上の最大値を更新することとなった。

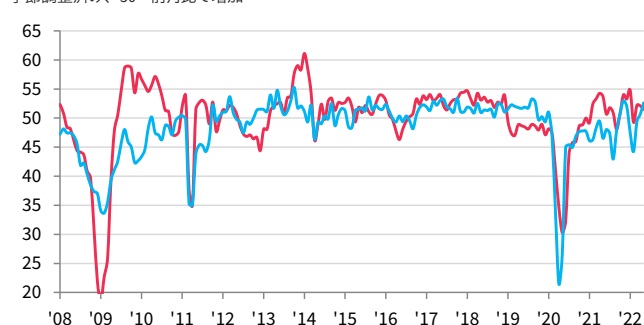
* 複合指数は製造業とサービス業それぞれの指数を加重平均したものである。加重値は、GDP公式データに基づく製造業とサービス業の相対的規模を反映している。日本複合生産高指数は、製造業生産高指数とサービス業活動指数の加重平均である。

複合生産高指数
季節調整済み、>50 = 前月比で増加



出典: auじぶん銀行、S&Pグローバル・インク、内閣府

製造業生産高指数
サービス業事業活動指数
季節調整済み、>50 = 前月比で増加



出典: auじぶん銀行、S&Pグローバル・インク

コメント

S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス、Usamah Bhattiによる最新調査結果についてのコメント

「日本のサービス業では第2四半期半ば、さらに需要の回復が進んだ。最新のPMIデータは、事業活動と新規事業が6か月間で最大の伸び率を記録したことを示した。調査回答企業らは、パンデミックの影響が薄れ、規制が緩和されたことが事業活動と需要の増加につながったことを指摘した。

さらに、受注残の増加率は2019年9月

以来の最大で、サービス業の雇用増加率も13か月間で最も大きく伸びたため、今後数か月間の事業活動も強含んでいるようだ。とは言うものの、平均間接費は記録的に上昇し、高騰する価格が需要を抑えた。

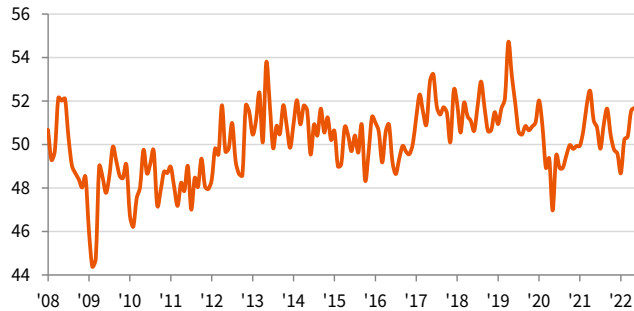
規模の大きいサービス業が強く推移し、民間企業の5月の生産高成長を加速させた。事業活動は、新規受注数が再び上昇していることを受け、5か月間で最大の増加率だった。

企業らは最新の調査期間で、購買価格の

インフレ率が調査史上最高であったことから、価格圧力が加速したことを指摘した。調査回答企業らは、ウクライナ紛争や中国のロックダウン措置により悪化するサプライチェーンの混乱の中、原材料価格が高騰していることを要因に挙げた。今後も国内外の事業活動が引き続き影響を受けると予想されるが、日本の企業らは、これらの影響が今後一年間で薄まるだろうと強気の姿勢を維持している。楽観的な景況感3か月間で最も高い値を更新した。」

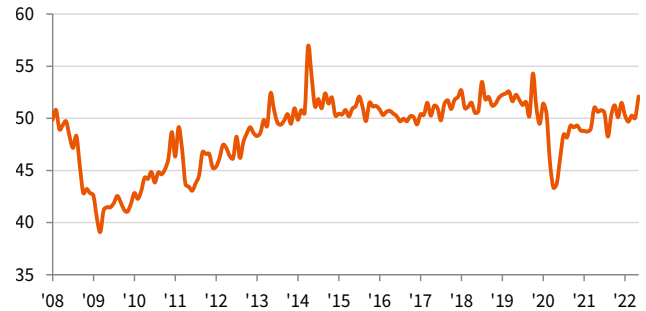
サービス業雇用指数

季節調整済み、>50 = 前月比で増加



サービス単価指数

季節調整済み、>50 = 前月比で上昇



お問い合わせはこちらどうぞ

auじぶん銀行
Grp-S-I-Room@jibunbank.co.jp

Usamah Bhatti
 エコノミスト
 S&Pグローバル・マーケット・
 インテリジェンス
 電話: +44 134 432 8370
usamah.bhatti@spglobal.com

Joanna Vickers
 コーポレートコミュニケーション
 S&Pグローバル・インク
 電話: +44 207 260 2234
joanna.vickers@spglobal.com

調査方法

auじぶん銀行日本サービス業PMI®は、S&Pグローバル・インクがサービス業約400社からの調査回答をもとにまとめています。対象セクターには消費者サービス(小売以外)、運輸、情報通信、金融、保険、不動産、ビジネスサービス等が含まれます。調査対象企業は、GDPへの貢献度に従い産業セクターおよび従業員数別に階層化されています。

調査回答は前月比での変化を示すもので、各月の後半に収集されます。これにもとづき、サブインデックスごとの拡散指数(ディフュージョン・インデックス)を算出します。各指数は「増加/上昇」と回答した企業の比率と、「同じ」と回答した企業の比率の半分の合計です。数値は0~100の間で変動し、50を超えれば前月比で全体として増加したことを、50を割り込めば全体として減少したことを意味します。そのうえで指数に季節調整が加えられます。

主要指数はサービス業事業活動指数です。これは、事業活動量の前月比での変化についての回答から算出する拡散指数(ディフュージョン・インデックス)です。サービス業事業活動指数は製造業の生産高指数に匹敵します。「サービス業PMI」と表現されることもありますが、製造業の主要指数のPMIと同列のものではありません。

複合生産高指数は、製造業生産高指数とサービス業事業活動指数の加重平均です。加重値は、GDP公式データに従った製造業とサービス業の相対的規模を反映したもものとなっています。複合生産高指数は「複合PMI」と表現されることもありますが、製造業の主要指数のPMIと同列のものではありません。

基本的調査データは発表後に修正されることはありません。ただし季節調整要因は必要に応じ修正されることがあり、その場合は季節調整済みデータに影響が及びます。

2022年5月のデータ収集期間: 2022年5月12~26日。

PMI(購買担当者指数)

購買担当者指数™(PMI®)調査は現在、40を超える国々およびユーロ圏等主要地域で実施されています。世界で最も注目される景況調査として、各国中央銀行、金融市場、企業経営者の方々より、経済動向を知るための正確でユニークな最新月間指標としてご利用いただいております。詳しくは、ihsmarkit.com/products/pmi.htmlをご覧ください。

免責事項

ここに提供するデータの知的所有権はS&Pグローバル・インクに帰属し、もしくは使用が許諾されています。当データのいかなる部分についても複製、配布、伝達またはその他の行為を含む無許可の使用は、S&Pグローバル・インクから事前の承諾がない限り認められません。S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は、当レポートの内容またはそこに含まれる情報(「データ」)、データ上のいかなる間違い、不正確な記述、脱落、遅延による、またはそれに関連した責任、義務、負担のいずれをも負うものでなく、またこれにもとづきとられたいかなる行為についても責任、義務、負担のいずれをも負いません。当データの使用によって生じるいかなる特殊、偶発的もしくは間接的損害についても、S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。Purchasing Managers' Index™およびPMI®はMarkit Economics Limitedの登録商標、もしくはMarkit Economics Limitedに使用が許諾されたものです。S&P GlobalはS&P Global Ltd.及び/又はその関連会社の登録商標です。

ここに提供するコンテンツは、S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンスが公開しています。S&Pグローバル・インクの別部門であるS&Pグローバル・レーティングが公開するコンテンツではありません。関係当事者から書面による事前の許可がない限り、形態を問わず、評価を含むいかなる情報、データ、資料(「コンテンツ」)の複製を禁止しています。関係当事者、関連会社、サプライヤー(「コンテンツプロバイダー」)は、コンテンツの正確性、妥当性、完全性、適時性、可用性を保証しません。また、いかなる間違いや脱落(疎漏など)、あるいは当該コンテンツの使用により生じた結果に対して責任を負いません。コンテンツのいかなる使用に関連するあらゆる損害、コスト、費用、弁護士費用、または損失(喪失利益や逸失利益、機会費用など)について、コンテンツプロバイダーは一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

PMI®

by S&P Global

© 2022 S&P Global

auじぶん銀行日本PMIのスポンサーはauじぶん銀行株式会社です

auじぶん銀行は2008年にKDDIと三菱UFJ銀行の共同出資により設立されたネット専業銀行です。「手のひらにある銀行」として、口座・金融商品・決済などに関して、スマホユーザー視点でサービス展開をしております。キャッシュカードなしで入出金が可能な「スマホATM」、為替相場の動きを予測する「AI外貨予測」、Amazon Alexaへの対応など、ユーザーエクスペリエンスを豊かにするために様々な取り組みを行っております。

S&Pグローバル・インクについて

S&Pグローバル・インク(NYSE: SPGI)は、必要不可欠なインテリジェンスを提供します。適切なデータ、専門知識、コネクテッドテクノロジーの提供により、政府機関、企業、個人が確信を持って意思決定を行うことを可能にします。新規投資案件の評価から、サプライチェーンにおけるESGやエネルギー・トランジションまで、世界中において新たな機会を発掘し、課題を解決し、成長を加速させます。

世界の資本市場、コモディ市場、自動車市場において、信用格付け、ベンチマーク、分析、ワークフローソリューションを提供し、グローバルのお客様の成長発展を支援します。詳細についてはウェブサイトをご覧ください: www.spglobal.com

S&Pグローバル・インクのプレスリリースを受け取りたくない場合は、katherine.smith@spglobal.comへお知らせください。弊社のプライバシーポリシーは、[ここをクリック](#)してください。